

**ICEM ゴム部会世界会議総括報告書**  
**2006年4月6日—7日**  
**トルコ、イスタンブール**

**1. 開会:**

**1.1. 部会議長のレオ・ジェラルルの欠席のため、ロン・フーパーを会議議長に選出した。** : ロン・フーパーは全米鉄鋼労組会長のレオ・ジェラルルは「AFL-CIO と勝利のための変革」会議に出席しなければならないため、本会議を欠席した、と説明し、彼の欠席を詫びた。

**1.2. 主催国組織であるトルコゴム労組のアブドゥラ・カラカン**は世界会議代議員を歓迎した。 : 彼はトルコゴム労組 Lastik-İş の 57 年に及ぶ歴史と ICEM との永年にわたる関係を説明した。また、彼はタイヤ企業との労働協約改定交渉で現在当面している諸問題とストライキ行使の可能性について説明した。

**1.3 ICEM 書記長フレッド・ヒッグスは ICEM ゴム部会世界会議に集まった各国組合代議員を歓迎した。** : 彼は前回世界会議以降達成した成果と世界レベルでの労働組合活動の調整拡大の必要性について留意を促した。グローバル化のプロセスはほとんどの諸国の組合組織に影響を与えた。世界各国の労働者は同じ権利を獲得するのではなく、途上国からの競争を背景に、使用者側からプレッシャーが掛かり、先進諸国の組合は労働条件の低下を受け入れなければならない、という状況に当面している。書記長は、会議代議員たちに実効あるゴム産業の取り組み戦略を策定してほしい、と歓迎挨拶を結んだ。

**2. ゴム産業の主要な動きと課題**

ミカエル・ウォルタースはゴム産業の情勢及び主要問題に関するプレゼンテーションを行った。

1. 2015年に天然ゴム不足
2. 中国市場の成長・拡大
3. 中国、インド及びロシアからの新たな競争 (大規模タイヤ会社)
4. 拡大する中欧市場
5. OTR 及びアースムーバーなどの特殊タイヤ製品の需要増大
6. タイヤ及びタイヤ以外のゴム製品事業の新技术

プレゼンテーションについての討議の後、日本の労組から中国および中国労組についての ICEM の政策方針について質問とタイヤ以外のゴム製品、特にゴム靴と靴のゴム底産業についてもっと情報がほしいとの発言があった。

南ア及びブラジルの代議員からは多国籍企業から組合に対するプレッシャーが大きくなっている状況を懸念する発言があった。両国の代議員は労働運動の強化のためにはこれまで以上の調整とコミュニケーションが必要である、

と強調した。

英国の TGWU からの代議員は当該世界会議からの同国の GMB 労組への連帯支援を要請した。同労組はワシントン、タイン、及びウエアにあるダンロップ工場に働く組合員の雇用を守るために闘争を展開している。これらの工場は会議開催前日、グッドイヤーが閉鎖を発表した。

フランスの FCE-CFDT からの代議員はフランスで販売されているゴム製品の 82%は多国籍企業で製造された製品であるが、これらの企業に雇用されているフランスの労働者数は減っていると述べた。

全米鉄鋼労組からの代議員は北米コンチネンタルタイヤに対する闘争と同社のシャーロット工場の状況について最新の状況を説明した。

ICEM 書記長と当該部会担当オフィサーが代議員からの質問に応えた。

### 3. グローバル協約とグローバル労組ネットワーク

書記長は ICEM のグローバル協約の背景と目的について説明し、当該協約が実効かつ持続性あるものにするためには、関係労働組合が ICEM グローバル労組ネットワークを設置し、運営するという課題に当面するとの言質を与えた。彼はネットワーク活動を行うことは必ずしも会議を開くことを意味するわけではない、と強調した。ネットワークは E メールでの連絡で成果ある活動が可能である。E メールを使えば、会議を開催するより頻繁に連絡でき、アクションの交差も可能である。

### 4. パネルディスカッション: 労組ネットワークとグローバル協約

ベルント・シュナイダー	フロイデンベルグ欧州労使協議会議長
ロン・フーパー	全米鉄鋼労連第一副会長
南雲三男	ゴム連合委員長
シ rilル・プーゴン	ミッシュェラン欧州労使協議会委員

ミカエル・ウォルタースはベルント・シュナイダーとシ rilル・プーゴンに彼らの会社の欧州労使協議会の活動について説明を求めた。

ベルントはフロイデンベルグの欧州労使協議会の歴史と組織体制について説明した。最初の 5-6 年間に生じた主要問題は関係各国の異なった労使関係文化が一緒に活動する方法を見出すことであった。現在、欧州労使協議会はポーランド、ルーマニア及びトルコの労働者代表と連絡接触関係を持つようとしている。そのため、EMCEF や ICEM からの支援及び関係各国の産別組織からの支援が必要となっている。フロイデンベルグ特有の生産体制を背景に、会社は生産をある国から別の国に移転することができる。現在、フロイデンベルグがターゲットとしているのはインドである。

シリルはミッシェランの事業状勢と欧州労使協議会の組織体制について説明した。欧州労使協議会の各委員は当該協議会の問題について5日間の有給教育訓練を受ける権利を持っている。欧州労使協議会は7のトラック用タイヤ工場で労働安全衛生及び環境問題について実態調査を実施した。その結果、事故数、負傷者数の低減に向けて、会社側の負担で、欧州のミッシェラン事業所に働く下請け労働者全員が欧州労使協議会主催の労働安全衛生訓練を受けることが出来ることになった。

南雲三男はブリヂストンネットワークについて報告した。当該ネットワークは毎年1回会合している。主要目的は各地域の労働安全衛生状況の改善である。この問題はすべての労働組合が取り組んでいる問題である。ネットワークの活動成果の一例として、彼は労働安全衛生担当者を各ブリヂストン工場に設置している事例とともにHIV/AIDSのプロジェクトを上げた。

ロン・フーバーはグッドイヤーグローバルネットワークについて報告した。残念ながら、数ヶ月前に当該ネットワークの運営担当者は退職した。全米鉄鋼労組はグッドイヤーを破産から救うため経営側を助けた。同労組はグッドイヤー取締役会に1名の役員を推薦することについて経営側と合意した。絵米国ではグッドイヤーは、労働組合が事業所に働く労働者の組織化を進める際に、経営側が労働組合に対し破壊工作をしないで中立の立場を取るという合意を組合と交わした。全米鉄鋼労連はまた、世界各国のグッドイヤー労組を配布対象に、グローバル連帯ニュースレターを数号刊行した。

ベルント・シュナイダーはICEM、IGBCE、フロイデンベルグ間のグローバル協約に関連する彼の経験について説明した。当初、米国の子会社の経営中枢は組合破壊工作の問題について無言の状態であった。また、ドイツの経営中枢もグローバル協約にあまり配慮するような姿勢は見せていなかった。事実、会社のウェブサイトにもグローバル協約のことは取り上げられていなかった。労働安全衛生問題が職場代議員と経営側、労使協議会、及び組合の主要議題であるが、これは今後改善されなければならない。

最後に、ミカエルはパネリストにそれぞれが発表した上記活動で今後改善すべき事項の内主な2項目について挙げてほしいと求めた。

**ブリヂストングローバル労組ネットワーク:**安全衛生に関するグローバル協約

**グッドイヤーグローバル労組ネットワーク:**労働組合権及び安全衛生に関するグローバル協約

**ミッシェラン欧州労使協議会:**協議会として事業レベルの問題が大きな問題になる前に経営側の重要な決定に影響を及ぼすことが出来るようにしたい。

**フロイデンベルググローバル協約:**自動車メーカーや自動車産業などのいくつかの産業部門と連絡接触関係を持ち、相乗効果を追求。有害物質について情報の収集とコミュニケーションの改善。

この後、書記長が ICEM の経験を簡略に説明した。各グローバル労組ネットワークには運営担当者が必要となる。グローバル協約は米国も適用対象としている。ICEM のグローバル協約は他の GUF の協約とは異なる。つまり、ICEM の協約の場合、いわゆる国際協約ではなく、本当の意味で世界規模の協約である。文書を翻訳する経費がない場合、オンラインの翻訳サイトを利用してほしい。シンプルなコミュニケーションの場合は利用可能だ。それで国と言語を超えて相互理解が可能となる。

## 5. ゴム産業の女性労働者

書記長はゴム産業内の女性労働者が当面する問題と課題について報告した。彼は ICEM 女性委員会の主要プロジェクトは同等価値の職責に対する同等賃金であると述べた。

## 6. 契約及び派遣労働

書記長は ICEM の契約及び派遣労働についての最近の活動状況について報告した。2006年1月、彼は ICFTU、TUAC 及び GUF 会議においてこの問題について合同プロジェクトの実施を提案し、関係全組織の賛同を得た。世界各国において契約及び派遣労働者が増えている傾向を背景に、多くの代議員が発言し、この問題について取り組むためしっかりとした政策が必要であることについて合意した。また、これらの労働者の組織化と彼らを適用対象とした労働協約の必要性について合意した。

## 7. アンケート評価

事前に実施したアンケートについての質問に応え、ミカエル・ウォルタースは13組織しか回答を寄せなかったため、当該産業の全体像を提示するには十分ではなかった、と説明した。回答を寄せた労組は契約労働の増加への懸念と当該問題への取り組み状況を説明している。

## 8. ゴム産業の労働安全衛生及び環境

レッジ・グリーンはゴム産業の労働安全衛生の主要課題に関するプレゼンテーションを行い、当該産業に典型的な疾病や健康問題について説明した。彼はまた、これらの課題への取り組み方を示唆し、ICEM は要請を受けた場合、支援すると述べた。また、労働安全衛生及び環境問題についても既存のグローバル協約を活用し、新たにグローバル協約を締結すること、また、既存のグローバル労組ネットワークの労働安全衛生関係の取り組みを強化改善することが重要であるとした。

## 9. 今後4年間の行動計画

書記長は今後4年間の行動計画として5項目を提案した。会議代議員は前回一致でこの行動計画を採択した。行動計画の5項目は次のとおりである。

1. 既存企業ネットワークの点検
2. グローバル協約内の安全衛生及び環境関連条項の強化
3. 契約派遣労働についての取り組みの優先化
4. 新たにグローバル協約の締結に向けて、ターゲット企業と対話・協議（ターゲット企業：コンチネンタル及びミッシェラン）

世界会議参加代議員は多国籍ゴム企業と団体交渉を実施しているトルコゴム労組への連帯支援に関する決議、並びに本会議前に発表された英国及びポーランドのグッドイヤー工場の閉鎖に対する抗議と関連雇用機会保守に関する決議を全開一致で採択した。

上述行動計画及び決議の全文は当該報告書に添付する。

## **10. ICEM ゴム産業部会議長選挙**

全米鉄鋼労組のレオ・ジェラルルの再選が提案され、世界会議代議員は前回一致で今後4年間の当該部会議長として彼を選出した。